社会学の諸領域

社会システム科学概論　第4回

富永健一『社会学講義』中央公論

- 現代の多様化し、それぞれの領域で専門分化した社会学を1人が論じることはもうできない状況である。テキストは編者による分筆が主流である。富永氏は1人で社会学総体を論じようとする最後の世代に属し、本書は貴重である。

新明正道と高田保馬の論争：総合社会学と特殊科学的社会学

- 19世紀の社会科学者は、政治・経済・文化をトータルに社会として考察、研究の対象としえた。
- 1)産業社会、市民社会がそれほど分化しておらず、政治と経済の領域が明瞭に区分されていなかった。2)アカデミズムの世界が揺籃期にあり、1人で様々な領域の研究を行え、なおかつ独自の知見を出しうる時代であったことによる。
- 現代においては社会学は特殊科学であるしかなく、社会学のみが扱いうる部分で勝負を賭ける

社会の定義

- 1) 成員間に相互コミュニケーション行為があること。
- 2) 相互行為が持続されることで社会関係が維持されること。
- 3) 成員が程度の差はあれ、組織化されていること。
- 4) 成員と非成員区別する境界が確定していること。
- 4点を満たしているものを社会、一部分しか満たしていないものを準社会とする。
- Q　身近な社会をあげて、この4つの点を述べよ。

4つの社会概念

- 1) マクロ社会：上記4条件を満たす社会　家族より国家まで　集団、地域社会
- 2) マクロ準社会：群衆、市場、社会階層、民族、国際社会等
- 3) ミクロ社会：個人レベルにある。行為、自我、意識のレベルにある社会。個人の思念であることもあれば、社会意識というような形（世論、国民意識）もある。
- 4) 広義の社会：総合社会学が対象とした社会
- 社会学は狭義の社会、1-3までを扱う

社会学の研究対象と変動方向

- 1) 基礎集団（関係が生活の基礎）：
- 家族、親族、氏族　機能縮小と構造的分解
例：日本の同族、家族　Q　機能：躾と教育　縮小？
- 2) 機能集団（限定された機能達成を目指す）：
- 近代産業社会の機能分化とともに爆発的に増大した。これは、基礎集団の機能を代替。変動の方向は合理化、典型が、企業と官庁、官僚制的組織
- Q　会社組織は合理的か？

- 3) 国家：国民国家の登場　いかに民族、宗教、文化的相違を「国民」の概念でまとめうるかが課題。
- 国家は権力機構：勢力争いに生き残る体力→民族、ナショナリズムだけで形成ない：国家の数は民族の数の数十分の一
- 国家を他の社会集団同様に捉えるという多元的国家論の出現：福祉国家→単なる権力装置としての認識では限界、社会的な機能を扱う社会学の出番
- Q　国家の社会的機能：公共事業（高速道路建設は何のため？）

- 4) 地域社会：村落→都市→国際地域社会
地域、コミュニティは生活、政治の基盤。
- Q　「地域」はどこまで拡大したか？/グローバル化？

- 5) 準社会：1.社会階層　明確な集団性はないが、生活様式・政治意識の共有
- Q　経済発展と中間層の拡大/縮小？
- 2.国際社会 労働力移動　世界都市化
- Q　グローバル化は国境の壁を崩した？